

28 週 十戒の序文

質問 43. 十戒の序文は、何ですか

答え I 十戒の序文は「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、
奴隷の家から導き出した神である」です。

質問 44. 十戒の序文が、私たちに教えるのは、何ですか。

答え I 十戒の序文が、私たちに教えるのは、神が主であり、贖い主である
ので、私たちは当然、神のすべての戒めを守らなければならないことで
す。

解説

律法をくださる方

十戒の序文は、神が、このすべての戒めを仰せられたことを確かにしていま
す。神は律法を与え、ご自身の知恵と権威の中で、ご自分の民に戒めを施す方
です。

十戒は道徳法として、神の民の生活において規則となります。それゆえ、神
が仰せることに耳をふさいではなく、このすべてを聞かなければなりませ

ん（イザヤ1:2）。そして、十戒を尊敬し、記憶しなければなりません。十戒を決して軽く思ってはなりません。戒めは、神の御心を複写したことと同じです。神が、私たちの善のためにくださったので、戒めを愛し、従順しなければなりません。それゆえ、使徒ヨハネは、戒めを愛し、守ることが、その人が新しく生まれた証拠だと語っています（Iヨハネ5:1-3）。それとは反対に、戒めに逆らうことは、罪であり、戒めをお与えになった、神に敵対することです。

道徳法

道徳法は、完全なる主が、お与えになったものだから完全なものです。道徳法は、決して変更することのできないものとして、儀式法、市民法とは違って、神の口から直接出て来たものです。神が、十戒を石の板に書き記したとは、それが、永続性を持っていることを見せています。

道徳法は、神の栄光を現します。十戒を受ける前にイスラエル民は自分たちの着物を洗いました。それは、神が、清い心を求められることを意味します。そして、神が戒めをお与えになった時、イスラエル民は、山の近くに接近することすら許されませんでした。それは、神の戒めを軽くあしらったり、無視したりができないことを意味します。私たちは、神の戒めを大切に思うべきです。神は、ご自身の指によって律法を書き記した後に、契約の箱の中に保管するように命じました。それは、戒めを尊敬するように作ったということです。

主となられる

十戒の序文は、神が主となられるという内容です。これはヘブル語で「ヤハウェ」です。主の御名は、神の栄光を現し、永遠であり、不変であり、自ら存在し、自ら充分という意味を内包しています（マラキ3:6）。それゆえ私たちは、神を礼拝し、神を信頼し、従順すべきです。神が私たちの神であるなら、私たちは何より先に、神を最高に崇めるべきであり、その方の戒めに従順すべきです（エゼキエル36:25-27、エレミヤ32:40）。私たちは神によって満足しなければならず、どのような状況でも神のみ頼って信頼しなければなりません。神を

限りなく賛美し、日々神と同行する生活を生きるべきです。

エジプトから救う

神は、イスラエルをエジプトの国、奴隷となっていた家から救い出したことを言及します。神はしるしと不思議を持ってイスラエルをエジプトから救い出しました。イスラエルは紅海を乾いた陸地を歩くように通過することができました。

神がイスラエル民をエジプトから救い出したのは、モーセがパロ王に告げたように、神を思うまま礼拝できるようにするためでした。私たちの救いも、神を完全に仕えるようにさせるためです。また、エジプトの汚染から救ったのも、すなわち、偶像崇拝から救ったことです。エジプトは偶像崇拝が蔓延しているところでした。イスラエル民は、厳しくて悲惨な奴隷生活を強いられました。そのような彼らを、悪魔と情欲的な生活から救い出したのです。それと同じく神は、私たちを罪と悪魔の奴隷生活から救い出し、神に仕えるように贖われました。そういうわけで、私たちは神に栄光を帰すべきです(Ⅰコリント6:19-20)。贖ってくださった神のことばに従順すべきです(ホセア4:2)。

神は、イスラエル民をエジプトから救い出し、異邦の民族がいるカナンの地に導きました。神を知らない異邦の民族に、生きておられ、イスラエルの主であられる神を知らせる方便とするために、カナンの地において神の戒めを守ることは最も重要なことでした(申4:6)。神は、イスラエル民と同じように不敬虔な私たちを、この世から、情欲の生活の中にいた私たちを、キリストを通して救い出した理由は、神の戒めを守る熱心なご自分の民とするためでした(テトス2:11-14)。神の戒めは、私たちを聖なる者とさせます。その方の戒めを守ることで、神に似るようになります(Ⅰペテロ1:15-16)。

律法主義

救われた民が、神の戒めを守ることは、極めて当然な事なのにも関わらず、これを律法主義だと言う者たちがいます。それは、間違った主張です。律法主

義とは、律法を守って救われようとすることです。反面、救われた民が律法を守ろうとすることは、救われるためではなく、神の救う目的が、聖なる生活であるのを悟っているからです。律法の行いによっては、到底、救われないことを知っているので、救いの恵みに感謝する方便として、戒めを守ろうと努力するのです。